

めぐりと紫波



みんなでたのしく環境について考えよう！

しわエコまつり2023

12月17日に紫波町情報交流館で「しわエコまつり2023」が開催されました。紫波町環境衛生組合連合会・紫波町ごみ減量女性会議・環境マイスター紫波・NPO法人紫波みらい研究所で組織されている「しわエコ連絡会」が主催となって開催されたこのまつりは、紫波町が推進している「循環型まちづくり」の活動の一環として行われ、各団体が誰でも楽しくできるエコな取り組みを体験できるブースを設置し、子供から大人まで参加いただきました。参加者は、楽しみながらエコな取り組みを体験し、今後の生活に役立つ知恵を学びました。

紫波町の水生物を知る



間伐材でスウェーデントーチ作りの実演



着物をリメイクした作品の展示



調理後に余った野菜の葉や根から作ったベジプロスを飲んでみる



新聞紙でエコバック作り体験

来年度の開催はは7月6日(土)を予定しています。お楽しみに！

= どうしよう？ごみの処分 =

春は転勤や進学など、新しい出発をされる方が多い時期。それに合わせて、新しいものの準備や片づけからのごみが多く出される時期でもあります。皆さん一人ひとりが、ごみの分け方について今一度確認しましょう。



◇ごみの分別については、ごみ収集カレンダーやごみ分別辞典をご覧ください。

◇引っ越し等に伴う一時的な多量ごみは、集積所に出すことができません。

収集業者に回収を依頼するか、事前予約のうえ、盛岡紫波地区環境衛生組合へ直接持ち込みをお願いします。

◎ごみの分け方と出し方については、こちらからもご覧いただけます。⇒



ごみ分別・減量説明会を開催しませんか？

紫波町は家庭系ごみの減量に向け、各地区で説明会を開催しています。地区公民館や子ども会と連携するなど、さまざまな形式で開催しています。

年齢や性別、地区によって「ごみ」への関心は様々で、説明会の内容は、皆さんの関心のある分野から自由に選べるように、いくつかのメニューを用意し、時間も参加者に合わせて、30分程度から自由に設定することができます。

(例) 「町のごみ処理の現状を説明」、「ゲーム形式で資源の分別の仕方を体験」
「小型家電や食品ロスなどの新しい分野を学習」

地域や職場、子ども会など皆さんで「ごみ」や「資源」について考え、「行動」へとつなげていきましょう。ごみ減量・分別説明会の開催を希望する方は、気軽に問い合わせください。

＜問い合わせ 紫波町環境課生活環境係（内 2250）＞

紫波町の目指す未来

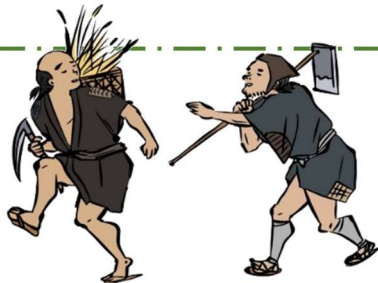
家庭系ごみ1人1日当たりの排出量

550g（令和4年度実績 574g）

※2021環境・循環基本計画から



エコロールちゃん
岩手県 3R 推進キャラクター



江戸時代に学ぶエコ生活 その4

省エネ・節電豆知識

250年以上続いた江戸時代。電気やガスはないそのころ、人々は資源を大切に使い、リサイクルに努めていました。その江戸時代の暮らしから現代にも活かせる暮らしのヒントを学びましょう。

江戸時代の暮らしは植物資源に支えられていた

江戸時代の日本は、人々の暮らしに必要な物資の大半を植物資源に依存していました。

一つは、「行灯（あんどん）の油」です。

江戸時代の照明といえば、小皿に注いだ油に火を灯す主流となっており、この行灯用の油には、ごま油、えごま油、菜種油、綿実油などの植物油が主に利用されていました。

次に、「日用品や堆肥づくり」です。

江戸時代の稲作では、収穫した藁の約20%を日用品づくりに、約50%を堆肥に、残りの約30%を燃料その他に充てていました。つまり、収穫した分を少しも廃棄することなく、100%活用していたのです。

この時につくられたものは、衣食住の様々な場面で役立ちました。

- ・衣食住の「衣」…日除け用の編笠（あみがさ）、雨具用の蓑（みの）、草履（ぞうり）など
- ・衣食住の「食」…米俵、鍋つかみ、釜敷きなどの台所用、藁苞（わらづと）納豆づくりなど
- ・衣食住の「住」…草屋根、畳、土壁の材料など

江戸時代の稲作農家は、農閑期にこれらの日用品を自家用につくると共に、販売用にもつくって収入源としていました。

江戸時代の日本は、意識的に循環型社会を実現したというよりは、あらゆる工夫を凝らして再利用可能な植物資源を最大限活用する中で、自然と独自のリサイクルシステムが構築されていったと言う方が正しいでしょう。そのため、江戸時代の生活には化石燃料に頼らずに生きるための知恵と経験が詰まっており、現代における循環型社会を実現する上で非常に理想的な見本となっています。